

みずほマーケット・トピック(2024年2月9日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

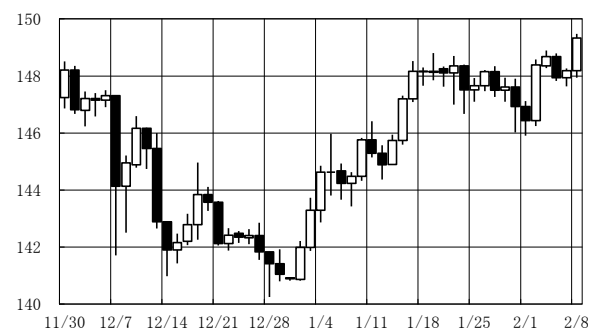
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、米金利が上昇する中、内田日銀副総裁の発言を受けた円売りも重なり、年初来高値を更新した。週初5日、148.51円でオープンしたドル/円は148円台半ばで方向感なく推移。海外時間は、米1月ISM非製造業景気指数の強い結果を受けた米金利上昇を背景に、149円を目指す展開となった。6日、ドル/円は148円台半ばで小動き。海外時間は、低下に転じる米金利を横目に、148円を割り込んだ。7日、ドル/円は米金利上昇を受け148円台前半に小幅高。海外時間は、米地銀株下落に伴うリスク回避の動きを受け一時週安値の147.62円まで急落も、円買いは長くは続かずすぐに148円台を回復、底堅い動きを継続した。8日、ドル/円は内田副総裁のハト派的な発言により、日銀による金融緩和の長期化観測の高まりから円売りが加速、149円を目指し上昇した。海外時間は、堅調な米労働統計を受け米金利が上昇したことも下支えとなり、年初来高値となる149.48円まで続伸した。本日のドル/円は、ドル買いの一服を受け、149円台前半で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは、週前半に年初来安値を更新後、独金利上昇を受けて持ち直し、ほぼ往って来いとなった。週初5日、1.0780でオープンしたユーロ/ドルは、欧州株式の軟調推移や米金利上昇が重しとなる中で、1.07台前半に下落した。6日、ユーロ/ドルは、米金利の動向につれる格好で上下動、年初来安値の1.0722を付けた後は、1.07台半ばを中心に方向感なく推移した。7日、ユーロ/ドルはECB高官のタカ派な発言などを受けた独金利上昇や、市場心理の改善を受けた米銀行株の反発が下支えとなり、1.07台後半に上昇した。8日、ユーロ/ドルは一時週高値の1.0788を付けた後、米金利上昇が重しになり、1.07台半ばまで下落。その後は、独金利上昇を横目に、再び1.07台後半まで値を戻して引けた。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.07台後半で取引されている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		2/2(Fri)	2/5(Mon)	2/6(Tue)	2/7(Wed)	2/8(Thu)
ドル/円	東京9:00	146.47	148.51	148.66	147.83	148.10
	High	148.58	148.90	148.78	148.26	149.48
	Low	146.25	148.27	147.83	147.62	147.94
	NY 17:00	148.40	148.68	147.95	148.17	149.34
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0875	1.0780	1.0744	1.0757	1.0776
	High	1.0897	1.0786	1.0762	1.0784	1.0788
	Low	1.0781	1.0723	1.0722	1.0753	1.0742
	NY 17:00	1.0791	1.0741	1.0755	1.0772	1.0778
ユーロ/円	東京9:00	159.28	160.08	159.69	159.12	159.57
	High	160.25	160.27	159.86	159.71	160.97
	Low	159.08	159.39	158.97	158.94	159.50
	NY 17:00	160.05	159.69	159.02	159.63	160.97
日経平均株価		36,158.02	36,354.16	36,160.66	36,119.92	36,863.28
TOPIX		2,539.68	2,556.71	2,539.25	2,549.95	2,562.63
NYダウ工業株30種平均		38,654.42	38,380.12	38,521.36	38,677.36	38,726.33
NASDAQ		15,628.95	15,597.68	15,609.00	15,756.64	15,793.72
日本10年債		0.66%	0.72%	0.71%	0.71%	0.69%
米国10年債		4.02%	4.16%	4.09%	4.11%	4.16%
原油価格(WTI)		72.28	72.78	73.31	73.86	76.22
金(NY)		2,053.70	2,042.90	2,051.40	2,051.70	2,047.90

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、13日(火)に1月消費者物価指数(CPI)が公表予定となっている。12月は+3.4%(前年比、以下同様)と市場予想の+3.2%および11月の+3.1%を上回った。一方、食料品とエネルギー価格を除いたコアベースでは+3.9%と市場予想の+3.8%を上回ったものの、11月の+4.0%からは伸びが鈍化。前年比の裏が出る格好でエネルギー価格の下落幅が縮小したことを受け、総合ベースが再加速した。他方コア項目では、コア財価格が+0.2%と+0.0%からプラス圏に戻した半面で、コアサービス価格は+5.5%から+5.3%へ順調に減速。とはいえ、総じて高い水準のままであり、早期の利下げ開始が支持される中身とはなっていない。なお、1月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+2.9%、コアベースで+3.7%と見込んでいる。
- 本邦では、15日(木)に2023年10～12月期GDP(速報)が公表予定。7～9月期の結果は前期比▲0.7%、前期比年率▲2.9%と、4四半期ぶりにマイナス成長に転落。前期比ベースの数字を寄与度で確認すると、純輸出が大きくGDP成長率を引き下げた。輸出停滞と輸入のプラス転換(4四半期ぶり)を受け、純輸出は4～6月期の+1.6%から▲0.1%とマイナス寄与に転じた。輸入増加自体は内需回復と捉えることも可能だが、民間最終消費は▲0.1%と2四半期連続でマイナス寄与だ。ペントアップ需要のボーナスもある程度使い果たしたと考えられる中、実質所得環境悪化が個人消費の重しとなっている。10～12月期に関しては、消費関連指標の弱さに鑑みるに個人消費は低調が続きそうだ。その他、インバウンドの好調さを受けサービス輸出主導で純輸出は3四半期ぶりにプラス寄与となりそうだ。なお、ブルームバーグの事前予想では、10～12月期の結果に関し前期比で+0.3%、前期比年率で+1.3%と見込んでいる。

	本 邦	海 外
2月9日(金)	_____	・独1月消費者物価指数(確報)
12日(月)	_____	_____
13日(火)	・1月国内企業物価指数 ・1月工作機械受注(速報)	・独2月ZEW景気期待指数 ・独12月経常収支 ・米1月NFIB中小企業楽観視数 ・米1月消費者物価指数
14日(水)	_____	・ユーロ圏10～12月期GDP(改定値) ・ユーロ圏12月鉱工業生産
15日(木)	・10～12月期GDP(速報) ・12月鉱工業生産(速報) ・12月設備稼働率	・ユーロ圏12月貿易収支 ・米1月小売売上高 ・米1月鉱工業生産 ・米2月NAHB住宅市場指数
16日(金)	・12月第3次産業活動指数	・米1月建設許可/住宅着工件数 ・米1月生産者物価指数 ・米2月ミシガン大学消費者マインド(速報)

【当面の主要行事日程(2024年2月～)】

ECB 政策理事会 (3月7日、4月11日、6月6日)
 日銀金融政策決定会合 (3月18～19日、4月25～26日、6月13～14日)
 FOMC (3月19日～3月20日、4月30日～5月1日、6月11～12日)
 IMF 世銀・年次総会 (4月19日～21日)

金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年2月8日	仮面の黒字国～戻らぬ円とデジタル農奴～
2024年2月7日	PPPやREERをどう解釈すべきか～インフレ調整という未来～
2024年2月2日	週末版(ソフトランディングと賃金減速～正当性を帯びる「夏」の重要性～)
2024年2月1日	FOMCを終えて～為替市場が狙う「次の獲物」～
2024年1月29日	日本円の現在地～独歩安で始まった2024年～
2024年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「夏」がキーフレーズ～)
2024年1月24日	日銀金融政策決定会合～織り込んで円安の怖さ～
2024年1月23日	ECB政策理事会プレビュー～勝利宣言はまだ～
2024年1月22日	「家計の円売り」と「損保のレバトリ」の違い
2024年1月19日	週末版
2024年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年12月分)
	「貯蓄から逃避」で進む円の独歩安～現状整理～
2024年1月17日	「新時代の赤字」の定点観測と今後の需給イメージ
2024年1月16日	マイルド・キャピタルフライト(後編)～需給への評価～
2024年1月15日	マイルド・キャピタルフライト(前編)～家計の円売り～
2024年1月12日	週末版
2024年1月11日	ユーロ圏インフレ率の近況～再浮揚の読み方～
2024年1月10日	震災と旅行収支の関係について～2011年からの教訓～
2024年1月9日	米大統領選挙の考え方～メインシナリオを覆すか～
2024年1月5日	週末版(能登半島地震の影響について～構造変化を経て「普通の通貨」になった円～)
2024年1月4日	24年、持つべきイメージは「長期円安局面の小休止」
2023年12月22日	週末版(本邦の家計金融資産動向について～外貨性資産比率は「根雪」のイメージで～)
2023年12月20日	日銀金融政策決定会合～解除時期と円相場への影響～
2023年12月18日	2024年、円需給の考え方～円転率や貿易収支が課題～
2023年12月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「利上げー利下げ」の考え方～)
2023年12月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年11月分)
	FOMCを終えて～突然変わった節目、日銀への影響も～
2023年12月13日	最近の需給環境について～24年も脆弱性は残る～
2023年12月12日	12月日銀会合の行方～政治的観点、2000年との比較～
2023年12月11日	24年ドル/円見通し外観～「主戦場の変化」を確認する年～
2023年12月8日	週末版(円高と植田発言の読み方～チャレンジの真意～)
2023年12月7日	ECB、シュナーベル発言の読み方～拡大解釈を警戒～
2023年12月6日	対内直接投資の胎動と今後への展望
2023年12月4日	24年、円高シナリオの鮮度～130円割れはあれど～
2023年12月1日	週末版(ユーロ圏11月消費者物価指数の読み方～最後の砦となるサービス業～)
2023年11月28日	ユーロ圏経済とECB金融政策の現状と展望
2023年11月24日	週末版(貿易赤字国が迎える米利下げ～通貨高は当たり前ではない～)
2023年11月21日	円高とPPPの考え方～収斂するのか、しないのか～
2023年11月20日	過去最安値に肉薄する円の名目実効相場(NEER)
2023年11月17日	週末版(本邦10月貿易統計を受けて～繰り返される23年と同じ言説～)
2023年11月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分)
	1年ぶり2度目のCPIショックをどう評価すべきか
2023年11月14日	ユーロ/円、15年ぶりの高値をどう理解すべきか
2023年11月13日	24年は「家計の円売り」元年になるか～外貨資産の現状～
2023年11月10日	週末版(23年度上期経常収支の読み方～CFベースの黒字は10分の1に～)
2023年11月9日	「欧州の病人」は戻って来たのか？～企業の「ドイツ離れ」～
2023年11月2日	週末版
2023年10月30日	150円台定着を受けて～その背景と今後の論点整理～
2023年10月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～再投資停止を阻むイタリア国債利回りの上昇～)
2023年10月26日	ECBプレビュー～利上げ代替としてのMRR引き上げ～
2023年10月23日	サービス収支に透ける製造業の行動変化
2023年10月20日	週末版
2023年10月19日	本邦9月貿易統計～起きるべくして起きた23年の円安～
2023年10月18日	再び直面する天然ガスリスク～ユーロ安考察～
2023年10月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分)
2023年10月13日	週末版(日独GDP逆転について～「弱い円」が原因としても・・・)
2023年10月12日	カネ関連収支でも拡がるサービス赤字
2023年10月11日	赤字が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引
2023年10月10日	円安シナリオを延命させる中東リスク
2023年10月6日	週末版
2023年10月5日	「底打ちか懸念」も漂う米経済～米金利上昇の考え方～
2023年10月4日	続・インフレを輸入する日本～「人手不足」の波～
2023年10月3日	ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について
2023年10月2日	インフレを輸入する日本～インフレ持続性の考え方～
2023年9月29日	週末版
2023年9月26日	円安シナリオを長続きさせる貿易赤字
2023年9月25日	日銀金融政策決定会合～マイナス金利解除の行方～
2023年9月22日	週末版
2023年9月21日	FOMCを終えて～「2024年こそ利下げの年」という危うさ～
2023年9月20日	23年4～6月期資金循環統計～「貯蓄から投資」の胎動～
2023年9月19日	「欧州の病人」は戻って来たのか？
2023年9月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「事実上の利上げ停止宣言」の読み方～)
2023年9月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年8月分)
2023年9月13日	ECB政策理事会プレビュー～「見送り+α」の公算～
2023年9月12日	日銀の政策運営に関するQ&A～読売報道を受けて～
2023年9月11日	7月国際収支の読み方～為替需給変わらず～
2023年9月8日	週末版
2023年9月7日	日本の貿易収支が直面する2つの想定外
2023年9月6日	海外出張で体感した内外価格差について
2023年9月4日	BRICS共通通貨は「いつか来た道」
2023年9月1日	週末版(ECB政策理事会議事要旨と8月消費者物価指数について～9月利上げの行方～)
2023年8月30日	夏を終えても変わらなかった円の独歩安
2023年8月28日	ジャクソンホールで浮き彫りになるインフレに対する「当事者」感
2023年8月25日	週末版
2023年8月24日	ユーロ圏経済の悪化とユーロ相場の現状
2023年8月23日	なぜ購買力平価は使えなくなっているのか
2023年8月22日	力強さが続くユーロ圏の雇用・賃金情勢
2023年8月21日	「持たざるリスク」に直面する日本の家計部門
2023年8月18日	週末版(本邦7月貿易収支を受けて～中国不振が阻害する収支改善～)
2023年8月17日	本邦4～6月期GDPの読み方～冴えない内需～
2023年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年7月分)
	年初来安値で確認する円の立ち現在地
2023年8月14日	再投資柔軟化から1年～フランスに並んだイタリア～